

私は大阪で生まれ、小学校の高学年になるまでの少年期を過ごしました。田舎では牧草運びや乳搾りの手伝いをしていました。週末には緑地で野球に明け暮れていました。緑地にはコンクリートでできた構造物があり、サイレンが鳴るとその緑地から退避を求められたことが思い出されます。

月日は流れ、母のアドバイスを受けて土木系の学校に入りました。学生時代の旅行先で、明石海

峡大橋などの大きな橋が地域経済や環境を大きく変えることを知り、土木という仕事を通して地域社会をより良いものにしたいという思いを胸に、現在の会社に就職。主に河川事業や自然再生事業に関わってきました。振り返ると何気なく野球練習をしていた場所は、地域を水害から守る遊水地でした。よく遊んでいた牧草地は、主要産業である農業を営むための社会基盤であり河川と深い関わりがあることを知りました。当たり前のように過ごしていた少年時代の日々が実は技術者としての第一歩であり、現在の自分を形成するルーツとなっているのだと思います。

近年、我が国では気候変動の影響と考えられる災害が頻発しており、多くの尊い人命を失ったり、農地や橋などの社会基盤が大きな被害を受けています。北海道は特に気候変動の影響が大きいとされており、今後、深刻な災害がいつ、どこで発生してもおかしくない時代が確実に近づいています。

河川事業者だけではの取り組みには限界があり、今後は、地域全体で人命や社会基盤を災害から防ぐ取り組みが大切で、各機関が連携し地域と一体となって取り組む必要があります。そのためにも一層技術の研鑽を図り、人と人との関わりを大切しながら業務に取り組んでいきたいと思っています。

藤田 和成 (ふじた かずなり)

●建設部門(河川、砂防及び
海岸・海洋)

勤務先

株式会社
北海道水工コンサルタンツ



→次号は、長谷川廣和さん(上下水道部門)

私は、北海道深川市で生まれ、田んぼに囲まれた自然豊かな環境で育ちました。地元の小中学校を卒業後、勉強はあまり好きではないため普通校ではなく旭川の工業高校(土木科)に入学しました。学校での勉強や実習などは、とても楽しかったのですが、様々な諸事情により進級ができない事態になってしまい中退してしまいました。半年ほど何もせずプラプラしていた時に測量のアルバイトがあると声をかけていただいたことをきっかけに地元の測量設計会社で働くこととなりました。

学歴がない私が技術職を続けていくためには、とりあえず資格が必要と考え測量士、土木施工管理技士を取得し、道路や河川の設計経験を積み、さらなるキャリアアップを目指し平成13年に現在の会社に転職しました。建設コンサルタントで勤務することで技術士資格の必要性を再認識し、技術士になることを目標とするようになりました。実務経験は足りていたため平成16年の1次試験合格後、すぐに2次試験を受験することはできたのですが、ここから長い道のりでした。平成17、18年は、受験申し込みをして札幌まで行ったものの受験せず。平成19年からは、真面目に受験するようになりましたが、勉強不足で結果が出ない状況が続きました。それでもあきらめることなく受験を続け、13回でやっと合格となりました。合格までに13年もの期間がかかったことは情けない話ですが、中卒だからとあきらめずに挑戦を続けた結果だと思っています。技術士になったからには、今以上の研鑽を積み、社会に貢献できる技術者として活躍したいと思っています。最後になりましたが、試験について様々な情報と指導をいただいた先輩技術士の皆様に感謝いたします。

山口 忠幸 (やまぐち ただゆき)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社日興ジオテック



→次号は、佃 知樹さん(建設部門)